

令和6年度第1回 さくら市地域公共交通会議 議事録要旨

令和6年6月14日（金）

さくら市役所総合政策部総合政策課

1 日 時 令和6年6月14日（金）10:00～11:00

2 場 所 市役所第1会議室

3 会 議 名 令和6年度第1回さくら市地域公共交通会議

4 結果概要

(1) さくら市地域公共交通会議設置要綱の改正について

→承認

(2) 令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について

→承認

(3) さくら市交通不便地域指定申請について

→承認

(4) さくら市 AI オンデマンド交通システム導入・運用に係る進捗状況について

→承認

議事録

「・会長 →委員 ⇒事務局」を表す。

■会長あいさつ

地域において重要性が日に日に増している公共交通について議論するため、ご意見いただきたい。

■議事①さくら市地域公共交通会議設置要綱の改正について

法改正により、今後運賃を改定する場合、地域公共交通会議ではなく、別途協議会を開催して協議を調えることが必要となった。

地域公共交通会議設置要綱を改正し、分科会として運賃協議会を設置することとしたい。

【質疑】

・具体的に説明してほしい。

⇒従前は運賃の協議も公共交通会議全員で行っていた。

今後は、公共交通会議の一部の委員により、公共交通会議の分科会として運賃協議会を設け、協議することとなる。

→資料中、「運賃改定について許可申請を行う」と記載があるが、運賃協議会での協議が調っていれば運輸支局には「申請」でなく「届出」で足りる。

【採決】

・異議なし

■議事②令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について

過去5年度のデマンド交通の実績※バス年度（10-9月）での実績

- ・登録者数は増加傾向
- ・利用者数は増加傾向
- ・アンケート実施は隔年となった
- ・満足度は下降傾向 上昇に向け努力したい
- ・収支率、公費負担の改善が難しい（物価高騰）

地域内フィーダー系統確保維持計画については、国庫補助金の交付を受けるため、別添資料のとおり策定し、国へ提出したい。また、今年度の申請様式が手に入っていないため昨年度のものを使用して資料を作成した。今後国から送付される今年度の様式が昨年度と異なった場合、今日の会議内容から一部記載を変更する可能性があるが、事務局に一任いただきたい。

【質疑】

- ・つういんコンタ号の満足度が下降傾向である要因について、事務局ではどのように認識しているか。

⇒なかったものができる、最初はありがたいと感じる。しかし、徐々に「あって当たり前」といった状態になり、「満足」から「ふつう」と感じてしまうこともあり得る。利用者満足度を高く保つためには、常にサービスのレベルアップをしていくべきと考えている。令和7年1月から運行形態の変更を考えており、黒須病院に加え氏家駅、イオンタウンさくらへも停まれるようにすることを計画している。

- ・その計画が実現できれば満足度も回復していくかもしれない。その内容もこのフィーダー計画に含まれているのか。

⇒含まれていない。運行形態を変更する際に、フィーダー計画についても記載内容を変更して再度申請することを考えている。

→今後、公共交通の広域化を考えていく必要がある。将来的には矢板市塩谷病院など、隣接市町までいける交通にしていきたい。

【採決】

- ・異議なし。軽微な変更は事務局に一任する。

■議事③さくら市交通不便地域指定申請について

デマンド交通は現在、国庫補助対象幹線系統である馬頭線の支線という位置付けでフィーダー補助金の交付を受けている。馬頭線が国庫補助対象外となってしまった場合に、デマンド交通も国庫補助を受けられなくなることを避けるため、今回の「交通不便地域」の申請をあらかじめしておく必要がある。

【質疑】

特になし

【採決】

・異議なし。

■議事④さくら市 AI オンデマンド交通システム導入・運用に係る進捗状況について

デマンド交通に AI オンデマンド交通システムの導入を予定している。5月21日に公募型プロポーザルの審査会を行い、導入事業者が「株式会社順風路」に決定した。

同社は「コンビニクル」というシステムを提供する事業者であり、80自治体以上での運行実績がある。今後準備をすすめていき、令和7年1月からの運行を目指す。

【質疑】

・AI オンデマンド交通システムによりデマンド交通がどのように変わるのか具体的に説明してほしい。

⇒現在は、8:00-9:00など便が決まっているが、システム導入後は、車が空いていればすぐ向かうことができるようになる。また、予約の時点である程度出発・到着時間がわかるようになる。電話受付していない時間帯でも、スマホから予約が可能となる。

・電話の受付時間は変わるのか。

⇒変わらない予定。

・電話の受付時間以外でもスマホで予約できるようになるのか。予約の確認もできるようになるか。

⇒できる。車両の現在位置も確認できるようになる。

・運行事業者目線ではどう変わるか。

⇒現在は事業者で電話予約を受け、締切時間後にルートを決め、運行している。それが、システムやコールセンターで受け付けられた予約がドライバーのタブレット上にルートと一緒に表示されるようになるため、運行だけに専念できるようになる。

・コールセンターと運行事業者のやり取りはどうなるのか。

⇒基本発生しない。緊急時の連絡等は今後協議する。

→AI オンデマンド交通システム導入の注意点として、便利になることで予約が取りづらくなる可能性がある。WEB上やアプリでいつでも予約できるようにしておくと、多くの予約をして結局乗らないという人も出てくる可能性がある。そういった予約で埋まって、本当に乗りたい人が予約できなくなると満足度が下がってしまうので注意いただきたい。

・事務局が視察にいった下野市でも、事業者が予約受付で大忙しだったと聞いている

→1人あたりの予約件数を抑えるなどもできるため、そういった対応も検討したい。

【採決】

・異議なし。

■その他

→イベント会場への交通手段もぜひ検討してほしい。益子の陶器市では巡回バスが入っているので、そういった事例を参考にしていきたい。

→スクールバスを利用するにも認可が必要であり、単発のイベントの場合難しい。政府が現在検討しているが、その結果によっては今より柔軟に使えるようになることもあり得る。

→デマンド交通の値上げは考えているのか。収支率改善のためにも必要ではないか。

→通常のタクシーは近年 20%程度値上げしているが、デマンド交通は多くの自治体で値上げしていない。現状、両者の運賃の乖離が大きくなっており、乖離を抑えないと、通常タクシーを利用する人が減少していく。持続可能な公共交通のためにも、デマンド交通の値上げはした方がよい。

・AI 導入と同時に値上げを検討を開始している。利用者からも「少しくらい値上げしても仕方ない」といった声はいただいているところである。具体的にどの程度値上げするかについては検討中であり、今後相談させていただきたい。